

## 「九州の未来力2030」第7回会合の概要

1. 開催日時：平成27年6月15日(月)14時00分～16時00分

2. 開催場所：福岡財務支局 会議室

テーマ：「サイバーセキュリティと社会情報基盤」

3. 議事概要

(1) 報告

①「中間とりまとめ」

(座長 森本 廣)

②「福岡財務支局管内の最近の経済情勢」(福岡財務支局長 長谷川 靖)

(2) プレゼンテーション

「サイバーセキュリティと社会情報基盤」

(九州大学理事・副学長 安浦 寛人)

### <要旨>

2014年の世界におけるサイバー犯罪による経済的損失は、年間約59兆円といわれており、我が国の税収を上回る規模の損失が世界で発生している。また、我が国においても、政府機関に対するサイバー攻撃の件数は、2013年度で、前年度の5倍の500万件超となるなど、サイバー犯罪は国家の安全保障や危機管理上の重要な問題となっている。

サイバー攻撃は技術面でも日々進化しており、組織や個人の重要情報が常に搾取や破壊活動の危機に晒されていることから、我が国では、企業や大学、国民が行うべきセキュリティ対策の基本方針を定めた「サイバーセキュリティ基本法」が2014年11月に制定され、サイバーセキュリティに関する専門人材の育成などに取り組んでいる。

このような中、九州大学では全学ファイアウォールシステムを導入し、内部からの情報の流出及び外部からのサイバー攻撃等に対するセキュリティ対策を講じ、サイバー空間を活用した学習環境を整備している。また、サイバーセキュリティセンター<sup>(注)</sup>を構築し、サイバーセキュリティ・フォー・オールを目指し、「学内全員に対する教育」、「プロの育成」、「先端技術の研究」を進めていこうとしている。

また、サイバーセキュリティが整備された社会情報基盤が構築された地域は、新たなビジネスセンターとなる可能性を持つことから、九州大学では、「安全で安心なサイバー空間の構築は都市や国の基盤」という構想のもと、サイバー空間を含む社会の安全を追求するため、新しい哲学と倫理を立てて、それに適合した教育を実施することを目指している。

(注) サイバーセキュリティセンターとは、情報科学、数学、社会科学、病院、1年生の教育を担当する基幹教育院の連携により、一般利用者のリテラシーの向上のための教育を担当する機関。また、世界的なセキュリティ研究教育展開のために国際的な大学間連携が進行していることを踏まえ、教材の作成や高度な人材育成等も担う。

(3) 意見交換（メンバーからの主な意見。一部複数人の意見を集約）

- 電子政府国家として一歩進んでいるエストニアでは、行政コストが5分の1になり効率化が図れたと聞いているが、反面、多くのリスクを抱えることになることを認識した。
- セキュリティの問題については、一個人、一企業ではなかなか対応できない。早急に世界的なルールをつくる必要があるのではないか。
- 情報弱者（高齢者等）を狙った犯罪（特殊詐欺等）についての対応を早急に行うべきである。
- サイバー空間では、IT弱者も多く関わっており、「被害者でありながら加害者にもなる」というキーワードが大変身に沁み、それが大きな課題であると認識した。
- 保護していると思っている技術についても、海外でコピー商品が出回っていることを考えれば、究極のアナログに戻るしかないのではないか。
- ネット犯罪が増加している中、犯人がなかなか捕まらないのが現状。便利さの中に犯罪が生まれ、対策についてはイタチごっこになっており、終わりが見えない。
- サイバーセキュリティに関しては、どれだけ対策を講じていても弱い部分を見つけて侵入されてしまう。セキュリティ保険など、リスクヘッジできるような仕組みが構築されないものだろうか。
- スマートメーターは、一人暮らしの高齢者の安否確認等に役立つ一方、悪用されるリスクもある。ICT技術は使い方が大事であり、悪用されないよう規制も考える必要がある。
- サイバー空間でのビジネスは、便利さ故に犯罪の入り込む隙があり、利用する側の「倫理観と責任」も非常に重要である。
- サイバーセキュリティについては、多くの課題があり簡単には解決できないと思うが、「北部九州に世界のビジネスセンターをつくる」という発想には夢があると思う。

4. 次回会合

開催日：平成27年9月9日（水）

テーマ：「新たな九州圏広域地方計画について」（仮称）

（以 上）